

Doi + Tanaka, 1941

on computer

on list

Mushi 13(2): 115-127, 5 figs, 1 pl.

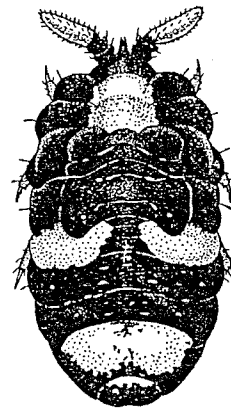
Author  
Card

VOL. 13 MUSHI 1940-1941

む し

第十三卷 (昭和十五・十六年)

Cat.



*Pseudachorutes yasumatsui* Uchida

福岡蟲の會

にして一面に褐色点を散布し、中横線・外横線は（個體に依つては帯をなし）前縁にて消失す。中室端には圓形の斑紋あり。外縁に平行なる各脈上の褐色点は外横線を形成し、外縁は褐色を帯ぶ。翅の裏面は表面の斑紋を表し、特に後翅外横線は明瞭、前後翅共に一面に褐色点を散布す。

### 29. *Planociampa modesta* (Butler) (1878)

*Cymatophora medialis* Matsumura, Thous. Ins. Jap., suppl., vol. 1, p. 76, t. 11, f. 11 (1909) (syn. nov.).

*Pachyligia medialis* Matsumura, 6000 II. Ins. Jap., p. 919, fig. (1931). Fukuoka, 16 April 1937, 1 ♂.

*Chemerina modesta* として河田（日本昆蟲圖鑑, p. 1309, t. 2587）が圖示したものは *P. antipala* Prout (1930) の誤であつて、両者は同一種として取扱はれて居る様である。従つて梅野（梅野昆蟲研究所報告, no. 1, p. 42, 1935）が既に九州から記録して居るが、茲に再び記録して置いた。

### 南洋群島の好蟻性甲蟲

江崎 悌三

南洋群島の蟻や白蟻の巢の中に棲んでゐる昆蟲、特に甲蟲に就いて特別の注意を拂つてゐるが、未だ多くを發見することが出来ない。今の處甲蟲では蟻の巢に棲む *Trochoideus desjardinsi* Guérin ヒゲトテンタウムシダマシと、白蟻の巢に棲むエンマムシの1種を見るのみである。前者は本邦では鹿野忠雄氏により紅頭嶼から記録され（昆蟲世界, vol. 32, p. 219, 1928）、中條道夫氏により圖説されてゐる（日本動物分類, vol. 10, fasc. 8, no. 12, Endomychidae, p. 164—166, 1939）。今日まで南洋群島で發見された産地は次の如くである。蟻の巢を發くと匂ひ出して来る。

Marianna Islands-Rota (Songsong, 4. xi. 6. xi. 1937); Saipan (Donni, 1. v. 1940).

Caroline Islands-Yap (Guilifez, 8. ix. 1939); Truk (Pata, 5. iv. 1940);

Ponape (Paliker, 29. xii. 1937); Kusaie (Malem, 15. xii. 17. xii. 1937)

以上の中 Saipan 及び Truk のものは安松京三、吉村清一郎氏の採集品である。又 Rota 島のもは *Paratrechina (Paratrechina) longicornis* (Latreille) ハヤアリ（安松氏同定）の伐採した樹の皮の下の巢中にて數頭發見したもので、私の採集した他島のもは總て *Anoplolepis longipes* (Jerdon) アシナガアカアリの巢中に發見された。Saipan にて採集された箇體は枯木の樹皮下に居たものであると云ふ。同じ蟻の巢にアリツカコホロギ (*Myrmecophila*) が2種、粘管目が1種、總尾目が1種見られるが、之等に就いては他日記す機があることと思ふ。

尙又白蟻 (*Kaloterms*) の巢中のエンマムシに就いても別に記すつもりである。外國の例では *Eutermes* の巢にいろいろな甲蟲が發見されるので、南洋群島の *Eutermes brevirostris* Oshima の巢は随分たくさん破壊して、その王室の附近を探索したが、未だ1頭の甲蟲も發見したことがない。

## 朝鮮産ナガメ屬（異翅亞目）に就いて

土居 寛暢 田中 三夫

京城府梨花町90 京城府竹添公立尋常小學校

[On the Genus *Eurydema* of Chosen (Heteroptera).

By Hironobu Doi and Mitsuo Tanaka]

筆者等は朝鮮産 *Eurydema rugosa* Motschulsky ナガメの斑紋に個體的變異のあることを從來認めてゐたのであるが、同じく朝鮮産 *Eurydema gebleri* Kolenti テウセンナガメの斑紋と比較するに及んで此の個體的變異は上記2種を繋ぐ連鎖をなすものではあるまいかと思はれたので多數の個體を蒐集比較した結果、若干の知見を明にすることが出来たのでここに掲げて大方の御参考に供すると同時に御批判御指導を仰ぐ次第である。

### 朝鮮産ナガメ屬の既記録種

朝鮮から從來記録されたナガメ屬には次の如く4種1型がある。

✕ *Eurydema rugosa* Motschulsky ナガメ (Tab. 3, figs. 1, 2)

松村松年：増訂日本千蟲圖解, vol. 1, pl. x, fig. 4, 1930.

—————：日本昆蟲大圖鑑, p. 1182, 1931.

江崎悌三：日本昆蟲圖鑑, p. 1579, 1932.

—————：原色日本昆蟲圖鑑, pl. 51, fig. 203, 1, 1939.

平山修次郎：原色千種昆蟲圖鑑, pl. 91, fig. 17, 1933.

加藤正世：分類原色日本昆蟲圖鑑, fasc. 5, pl. 12, fig. 1, 1937.

〔標徴〕體形は略橢圓形、頭頂及び前胸背の兩側縁とを結べば略三角形を呈す（頭部、前胸部の形）。體の上面は藍黑色にして淡橙色の鮮明なる斑紋を有し、體の下面は白黄色又は淡橙色にして各胸節及び腹節の中央及び側縁に近く黒紋を有す。體は上下面とも微細なる點刻を密布す。頭部は略三角形にして側葉は中葉より長くその前方にて相合す。上下面とも藍黑色を呈すれども前縁、側縁、觸角の後方及び口吻の兩側は淡橙色を呈す。觸角は黑色にして5節、複眼は左右に突出して黑色、單眼は橙色。

口吻は4節にして黒色。前胸背は周縁及び中央の1條は淡橙色にして中央條の前縁に接する處は小さき長方形をなす。胸部下面は黒色にして各節の周縁は狭く白黄色に縁どらる。小楯板にはY字形の斑紋あり。半翅鞘は前縁の基半部は淡橙色にして末端に近く略長三角形をなす淡橙色又は白黄色の斑紋あり、膜質部は黒色なれども周縁は透明なり。腹部結合板は淡橙色、下面は中央及び側縁に近く黒紋ありて中央紋は横帯をなし側紋は橢圓形をなす。脚は黒色、脛節の中央に淡橙色の環狀紋あり、跗節は3節にして第2節最も短し。本種は極めて個體的變異に富む。

〔分布〕 朝鮮、北海道、本州、九州。

1. 朝鮮に於ける既知産地

濟州島(岡本博士)(Bull. Agr. Exp. Sta., Gov.-Gen., Chosen, vol. 1, 1924), 水原(古川氏)(昆蟲, vol. 4, no. 1, 1930), 平壤・白峰・京城・北漢山・密陽・道遠山(土居)(朝鮮博物學會雜誌, no. 13, 1932), 伽倻山・大邱(上條氏)(朝鮮博物學會雜誌, no. 15, 1933), 内藏山・井邑(山田氏)・本浦(上條氏)(朝鮮博物學會雜誌, no. 21, 1936)。

2. 朝鮮に於ける新採集地

雪岳山・内金剛・光陵・文鶴山(田中)。

2. *Eurydema gebleri* Kolenti テウセンナガメ (Tab. 3, figs. 3, 4)

Yang, We-I: Bull. Fan Mem. Inst. Biol., Zool. Ser., vol. iv, no. 2, p. 30, 1933.

〔標徴〕 體形は略橢圓形、體の上面は藍黒色にして鮮明なる淡橙色又は白黄色の斑紋を有し、體の下面は白黄色にして各胸節及び腹節の中央及び側縁に黒紋を有す。體の上下面とも微細なる點刻を密布す。頭部は略三角形にして側葉は中葉より長くその前方にて相合す。上下面とも藍黒色にして複眼の前方に淡橙色又は白黄色の小なる斑紋あり。側葉の前縁、側縁及び下面、觸角の基部及び口吻の兩側は白黄色。觸角は5節にして黒色。複眼は左右に突出して黒色、單眼は柿色。口吻は黒色にして4節。前胸背は淡橙色の地に6個の黒紋を有す。胸部は下面各節は黒色なれど周縁は狭き白黄色に縁どられ、中央及び側縁に黒紋を有すれども黒紋中に更に白黄色の不規則なる斑紋を有す。小楯板上には大なるY字形の斑紋あり。半翅鞘は前縁の基半部淡橙色、末端に近く略長三角形の同色の斑紋あり。膜質部は黒色なれども周縁は透明なり。腹部結合板は淡橙色、下面は白黄色にして各節中央に2黒紋(第6節にては1横帯をなす)を有し側縁に近く圓形の黒紋あり(生殖節も同様)。脚は黒色なれども脛節の基半部及び脛節の中央は白黄色、脛部の黒色部には中に不規則なる白黄色の斑を交ふ。跗節は3節にして第2節最も短し。本種は前種に酷似すれども頭部側葉上に白黄色斑を有すること、前胸背の黒紋は6個なること、腹部中央黒紋は前種に於けるが如く横帯をなさずして分離せることに依り區別せらる。併し本種も亦極めて個體的變異に富むものである。

〔分布〕 朝鮮、支那、シベリア、コーカサス、トルキスタン。

1. 朝鮮に於ける既知産地

白峰(土居)(朝鮮博物學會雜誌, no. 20, 1935)。

2. 朝鮮に於ける新採集地

頭流山(田中)。

3. *Eurydema pulehra* Westwood ヒメナガメ (Tab. 3, fig. 5)

松村松年: 日本昆蟲大圖鑑, p. 1182, 1931.

江崎梯三: 日本昆蟲圖鑑, p. 1579, 1932.

———: 原色日本昆蟲圖鑑, pl. 51, fig. 203, 2, 1939.

平山修次郎: 原色千種日本昆蟲圖鑑, pl. 91, fig. 18, 1933.

Yang, We-I: Bull. Fan Mem. Inst. Biol., Zool. Ser., vol. iv, no. 2, p. 32, 1933.

加藤正世: 分類原色昆蟲圖鑑, fasc. v, pl. 12, fig. 2, 1937.

〔標徴〕 (濟州島産) 體は卵形にして頭端と前胸背の側縁に沿ふて最大幅の個所とを結べば略三角形(頭部、前胸背の形)を呈す。體の上面は光澤ある藍黒色にして淡橙色の斑紋を有す。體の下面は淡橙色にして各胸節及び腹節には中央及び側縁に近く黒紋を有す。體の上下面ともに微細なる點刻を密布す。

頭部は略三角形にして側葉は中葉より長くその前方に於て相合す。頭部は上下面とも藍黒色なれども、前縁、側縁及び觸角突起の後方は淡橙色を呈す。複眼、口吻は同色、單眼は赤紫色。口吻は4節なり。前胸背は淡橙色の地に6個の黒紋を有し前方2個は小にして後方の4個のうち兩側縁に近き黒紋は小なれども中央の2黒紋は大なり。胸部下面各節の中央及び側縁に近く黒紋を有し、中央黒紋は圓形にして小、側縁の黒紋は略長方形にして大なり。小楯板は三角形にして藍黒色を呈し大なるY字形をなせる淡橙色の斑紋あり。半翅鞘は藍黒色にして前縁に沿ふて基部の近くに小なる、末端に大なる山形の淡橙色斑紋2個ありて各斑紋の中央には黒紋を有す。膜質部は黒褐色なるも周縁は透明。腹部下面は淡橙色なるも各節の中央及び側縁に近く黒紋を有し、中央黒紋は横に帶狀をなし、側紋は略橢圓形を呈す。第3, 4, 5, 6の各節には更に微小なる黒斑を側縁前方に有す。脚は藍黒色なれども脛節の中央部に淡橙色の環紋あり。

測定: 1♂。體長(膜質部を含む) 7.5 mm. 前胸背の幅 4 mm.

本種は朝鮮に於ては下記に示すが如く記録少く個體數も亦非常に少いやうである。この濟州島産の標本は體表の斑紋の發達が極めて貧弱で且不明瞭である。内地産の如く赤色を帯びることなく斑紋も亦極めて細いものである。

〔分布〕 朝鮮、本州(中部以南)、九州、臺灣、印度、支那、東洋熱帯。

1. 朝鮮に於ける既知産地

濟州島(土居)(朝鮮博物學會雜誌, no. 21, 1936), 巨文島(白甲鏞氏)(昆蟲學, vol. 5, no. 44, 1937)。

4. *Eurydema dominulus* Scopoli カラフトナガメ (Tab. 3, fig. 6).

Yang, We-I; Bull. Fan Mem. Inst. Biol., Zool. Ser., vol. iv, no. 2, p. 34, 1933.

〔標徴〕 體は橢圓形にして頭部及び前胸背の形は略三角形を呈す。體の上面は光澤ある藍黑色にして柿赤色の斑紋を有す。下面は黄白色又は淡橙色にして各胸節及び腹節の中央及び兩側縁に黒紋を有す。胸部の中央黒紋及び腹部の兩側縁は小にして胸部の兩側縁及び腹部の中央黒紋は大なり。體は上下面とも微細なる點刻を密布す。頭部は略三角形にして微細なる點刻を密布し、側葉は中葉より著しく長くその前方に於て相合す。上下面とも藍黑色なれども前縁、側縁は柿赤色にして觸角突起の後方、口吻の基部下面は黄白色又は淡橙色を呈す。觸角、口吻、複眼は同色、單眼は赤紫色。觸角は5節にして第2, 4, 5節は略等長、第1節最も短く、第3節は第1節より長く第2節より短し。口吻は4節。前胸背は柿赤色の地に6個の黒紋を有し、前方の2個は小さく、後方4個のうち兩側縁の紋は小、中央の2個は大なり。小楯板は三角形にして藍黑色、Y字形の大なる柿赤色斑紋を有す。半翅鞘は藍黑色にして前縁に沿ふて基部近くに小なる、末端に大なる柿赤色の山形斑紋ありて、末端の斑紋内にのみ1黒紋を有す。膜質部は黒褐色なれども周縁は透明なり。胸部下面各節には中央及び側縁に黒紋を有し、中央紋は不規則なれども側縁は略長方形なり。腹部下面にも黒紋ありて中央紋は横帯をなして大なり。側縁は略長方形をなす。脚は黒色なれども腿節及び脛節の中央に褐色の環紋を有す(中には不明瞭なる個體もあり)。

本種は *E. pulchra* に酷似すれども、體の斑紋の濃柿赤色なること、半翅鞘前縁基部に近き山形斑紋内に黒點を有せざること及び腹部下面の第3, 4, 5, 6節の側縁前方に黒點を有せざることにより容易に區別し得る。併し稀に半翅鞘前縁基部に近き山形斑紋内に極めて微小なる黒點を有する個體ありて前種と對比して觀察するとき極めて興味あることと思ふ。

測定：體長(膜質部を含む) ♂ 6mm. ♀ 8mm. 前胸背の幅 ♂ 3.5mm. ♀ 4.5mm.

*Eurydema dominulus* Scopoli f. *albovariegata* Reuter

本型は基本型と異り斑紋の色彩は體の下面と同様淡橙色又は黄白色となり、斑紋中處々に柿色を僅かに残す程度である。又前胸背の側縁に近き亞側縁縱條(s. l. m)は不明となれる個體がある。脚の腿節及び脛節の環紋は極めて明瞭に現はる。

〔分布〕 朝鮮、樺太、支那、シベリア、歐洲。

1. 朝鮮に於ける既知産地

道遼山〔白變型〕(土居)(朝鮮博物學會雜誌, no. 20, 1935), 合水及び北溪水〔基本型〕(土居)(朝鮮博物學會雜誌, no. 21, 1936), 南雪嶺〔基本型〕(土居)(むし, vol. 11, no. 1, 1938).

2. 朝鮮に於ける新採集地

蔚珍及び逍遙山〔白變型〕(田中).

朝鮮産ナガメ屬の種の検索表

- |   |   |
|---|---|
| 1 | 半翅鞘前縁末端に山形斑紋を有せず……………(2)  |
| 1 | 半翅鞘前縁の末端及び中央部に山形斑紋を有し、腹部中央黒紋は1横帯をなし<br>て2分せず……………(3)              |
| 2 | 腹部中央黒紋は2分し、前胸背黒紋は6個あり…………… <i>E. gebleri</i> ✓                    |
| 2 | 腹部中央黒紋は横帯をなして2分せず、前胸背黒紋は大にして2個あり……………<br>…………… <i>E. rugosa</i> ✓ |
| 3 | 半翅鞘前縁の山形斑紋は何れもそのうちに黒斑を有す…………… <i>E. pulchra</i> ✓                 |
| 3 | 半翅鞘前縁末端の山形斑紋にのみ黒斑を有す……………(4)                                      |
| 4 | 斑紋の色彩は柿赤色なり…………… <i>E. dominulus</i> ✓                            |
| 4 | 斑紋の色彩は淡黄色なり…………… <i>E. dominulus</i> f. <i>albovariegata</i> ✓    |

朝鮮に於けるナガメ屬の分布

従来朝鮮に於ては *E. rugosa* が *Eurydema* の代表者であつて極めて廣く分布し南は濟州島から北は咸南又は平南の南部まで或はそれ以北にも及んでゐると考へられてゐたのであるが、筆者等の調査によれば *rugosa* として記録されたものの多数は寧ろ *E. gebleri* とすべきであると思はれる。尤も従来 *rugosa* として記録されたものの中少數のものは確かに *rugosa* に一

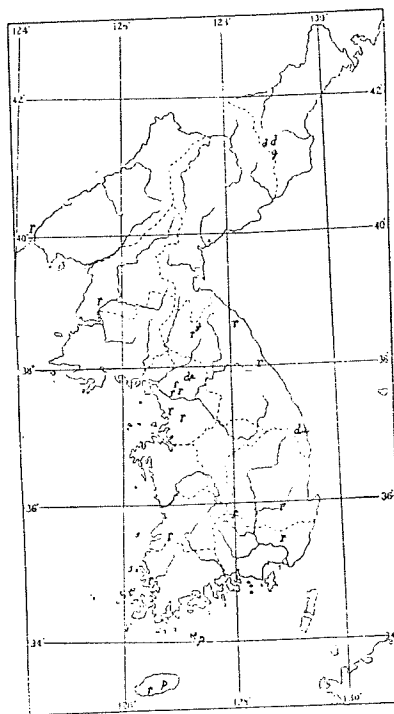


Fig. 1. 従來の記録による朝鮮産 *Eurydema* 屬の分布圖。

- r — *E. rugosa*  
g — *E. gebleri*  
p — *E. pulchra*  
d — *E. dominulus*  
d.a — *E. d. f. albovariegata*

致するが朝鮮に廣く分布してゐるものは *gebleri* であつて *rugosa* は極めて稀に産するものであると思考される。そこで朝鮮内に於て *gebleri* と *rugosa* とが如何なる分布相を示すかは筆者等の従來の調査では尙不充分で更に將來の調査にまたねばならぬ。第1圖に掲げた分布圖は従來の記録により作成したものであるから當然改訂されなければならぬものである。

*E. pulchra* に就いては、其の分布が南鮮の島嶼を出でないことは、従來本邦内地に於ける分布が本州中部以南であることから充分頷けることであるが、今後の調査に依り本種が半島をどの地域まで北進せるかを知ることが極めて興味ある問題である。

*E. dominulus* は *pulchra* と全く反對に北部に限つて見出されてゐることは従來蓋馬高臺の昆蟲相がシベリア・アムール系を示すことから考へて當然であると思ふが、本種が半島のどの地域まで南下分布してゐるかといふことが問題であると同時に本種の白變型 *albovariegata* が現在までの處では朝鮮中部にのみ見出されてゐることは興味ある事實であると思ふ。

### 個體的變異

本節に於て取扱ふ個體的變異は何れも *gebleri* と *rugosa* とを繋ぐ連鎖を示すものであつて最も重要な點は腹部の黒紋の變異である。これは北方系の *gebleri* が半島を南下するに従つて現はす地方的變異であると思ふ。

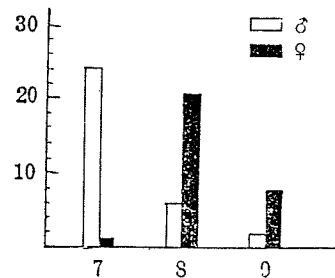


Fig. 2. 體長表.

以下各部に就いて詳述する。

#### (1) 體長 (Fig. 2)

體長は第2圖に示すが如く、同一性のものは著しき體長の差を認めることが出来ないが、性別による體長の差は明かに認められ、他の昆蟲と同様♀は♂に比して一般に大であり一見して♀♂の判別が出来る。尙ほ

性比は 15:16 で略同数で著しき差は認められてない。

#### (2) 頭部側葉基部の黄色斑 (l.s.) (Fig. 3)

朝鮮産 *gebleri* 及び *rugosa* として取扱つて來た多數の個體を見るに、頭部側葉基部に黄色斑を有するもの、有せざるもの又は黄色斑の大なるもの、小なるものなどがある。

今假りに大なる黄色斑を有する集團を A-group とし、小なる黄色斑を有する集團を B-group とし、全く黄色斑を有せざるものを C-group とすれば、fig. 3 に示すやうにこの黄色斑 (l.s.) は 1 に示すが如きものよ



Fig. 3. 頭部側葉基部の黄色斑の變異.

り漸次縮小して 2 の如きものとなり更に全く l.s. を缺く 3 の如きものに移行してゐることが認められる。この l.s. の最も大なるものは體軸に沿つて 0.3 mm., 幅 0.4 mm. である。

次に個體数について見ると、A-group のものは全體の約 25% を占め、B-group, C-group に至るに従ひ漸次増加すること次表に示す如くである。

各 group の個體数を示す。

Group	個體数	%
A	16	25.81
B	17	27.42
C	29	46.77
計	62	100.00

然も其等の産地を見るに、A-group では 16 頭のうち 10 頭は北部高地帯の産であつて、B-group では殆ど全部が中部朝鮮の産で北鮮産のものは僅かに 1 頭あるのみ、C-group に至つては總て中鮮及南鮮の産であつて北鮮産は皆無である。

如上の事實によりこの l.s. なる斑紋は北方のものに發達し南方に進む

に従ひ漸次縮小し遂に消失するものであつて分布区域と極めて重要な關係があるものと思はれる。

又この l. s. 斑紋は體各部斑紋の變異と密接なる關係が認められる。

### (3) 體の各部斑紋の變異

頭部側葉基部の l. s. 斑紋が産地及び體各部の斑紋と密接なる關係のあることは後に掲げる表に依りて明かに知ることが出来る。即ち A-group について見るに前胸背の黒紋を分割する亞前縁横條 (s. a. m.) 及び亞側縁縦條 (s. l. m.) を有する個體は 16 頭中 12 頭あり、B-group では 17 頭中 6 頭のみ s. a. m. 及び s. l. m. の條斑を有し、C-group に至りては此等の條斑を有するものは 27 頭中僅かに 5 頭のみである。

胸部下面のコンマ状白斑 (Tab. 3, fig. 4. 参照) は A-group では比較的大きく殊に後胸の白斑は 3 頭を除く外は總て大形である。B-group では白斑は縮小し後胸の白斑も大なるものはない。C-group では白斑は更に縮小し稀に小白斑を有するものがあるが、大部分は白斑を缺いてゐる (Tab. 3, fig. 2)。

腹部下面各節中央の黒紋について見るに、A, B, C 何れの group も總て黒紋は分離して 2 個の黒紋となつてゐるが、C-group に於てのみ僅かに 5 頭だけ黒紋の分離しないものがある、併しこれとても rugosa に於けるが如き横帯 (Tab. 3, fig. 2) をなすことなく 2 黒紋が接近してゐるといふ程度のものである (Fig. 5 の 3)。

今假りにこの腹部下面の中央黒紋を大中小の 3 様に分ち、腹節の幅 (前後の長さ) と同じものを大とし、幅の  $\frac{1}{2}$  のものを中とし、 $\frac{1}{2}$  以下のものを小とすれば、A-group では大部分は黒紋が小又は中であつて、且分離して 2 紋となつて居り、黒紋が大であつて分離してゐる個體は僅かに 2 頭である。B-group では黒紋は中又は大であつて分離する個體が大部分であつて黒紋が小で分離する個體は僅かに 2 頭に過ぎない。C-group では黒紋は大又は中であつて分離する個體が大部分を占め、黒紋が小で分離するものは 29 頭中僅かに 3 頭に過ぎない。

頭部下面の斑紋及び脚の腿、脛節の黄色環紋も亦胸部及び腹部の斑紋と同様、A-group より C-group に至るに従ひ黒斑が擴大する。即ち頭部下面は黒色 (Tab 3, fig. 2) となり、脚の黄色環紋は次第に不明瞭となる。

上述の如くに體の各部の黒色斑紋は l. s. の斑紋及び産地と關聯して A-group より C-group に至るに従ひ次第に増大する傾向が認められる。尙ほ前胸背の斑紋及び腹部下面の黒紋については更に説明を追加して置きたい。

### (4) 前胸背の斑紋 (Fig. 4)

前胸背の黒色斑紋の最も發達したものは fig. 4 の 1 の如きものであるが、多くの個體を調査して見ると、fig. 4 に示すやうに亞前縁横條 (s. a. m.) 及

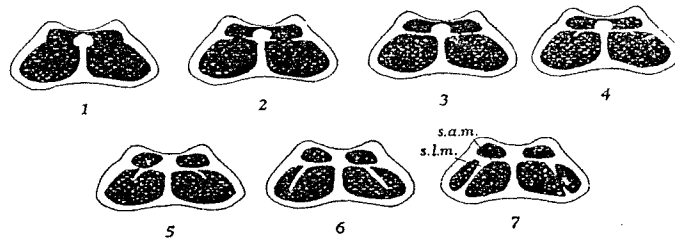


Fig. 4. 前胸背の斑紋の變異。

び亞側縁縦條 (s. l. m.) に種々なる程度の變異を見ることが出来る。この兩様の條が完全に現はれそれがため前胸背の黒紋が 6 個となつたものは同圖 7 に示す如きものである。而して前胸背の斑紋だけについて見ると、1 は rugosa に相當し、7 は gebleri に合致し而も此兩型は連続的變異によつて連つてゐる。従つて rugosa と gebleri とは前胸背の斑紋によりては其の區別が困難であると思はれる。

### (5) 腹部下面の黒紋 (Fig. 5)

腹部下面の黒紋も亦前胸背の斑紋同様に種々なる程度の變異を現はしてゐる。中央黒紋が遠く離れて 2 紋となり而も極めて小さく、又側紋も小にして略圓形なるものは fig. 5 の 6 に示すもので之は正に gebleri の型である。この黒紋が次第に擴大して 3 に示す程度となり、更に進んで 2 に示

すが如きものまで連続的變異を現はしてゐる、而して 2 は即ち *rugosa* の型である。更に黒紋が伸長して 1 に示すように中央紋と側紋とが相連りて横條をなすものが多数の個體中唯 1 頭あつた。

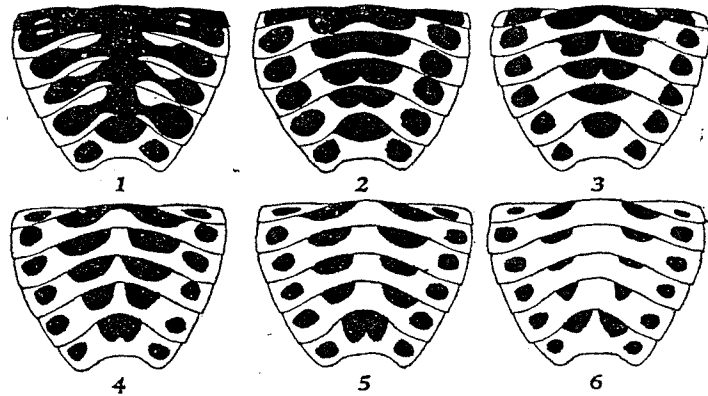


Fig. 5. 腹部下面黒紋の變異.

さて之を内地産の *rugosa* について見るに 2 の型が最も多く、3、4 へと漸次黒紋の分離する傾向は認められるが全く黒紋の分離せるものは極めて稀である。之に反して朝鮮産のものは黒紋の分離せる型から接近、結合、横帯斑をなす型へと漸次減少して行くことは極めて興味あることである。

### 結 語

筆者等は本稿に於て朝鮮から従來記録された *Eurydema* 屬の 4 種 1 型について記載し且その分布と個體的變異とを述べたのであるが今之について筆者等の考へを摘記すれば次の通りである。

現在迄の處では、*dominulus* は北鮮に、*d. f. albovariegata* は中鮮に、而して *pulchra* は南鮮島嶼にのみ見出されてゐるが、將來の調査によつて *dominulus* と *pulchra* とが半島をどの程度まで南又は北に進入して居るかを知らぬことは興味ある事項であると思ふ。

又従來 *gebleri* は北鮮から、*rugosa* は各地から記録されてゐるが、その

*rugosa* の多数は實は *gebleri* に屬さしむべきもので、眞に *rugosa* と認むべきものは極めて少数であると思ふ。而して *gebleri* と *rugosa* とが果して如何なる分布相を有するかは是亦將來の調査研究を要する問題である。

次に *pulchra* と *dominulus* とは暫く措き、*gebleri* と *rugosa* とは朝鮮では其鑑別が極めて困難であり、且前述の如き變異の事實を綜合して考察すると、北方性の *gebleri* が朝鮮半島を南下するに従つて次第に變異をとげ、中鮮より南鮮に至り、朝鮮海峽を隔てて内地の *rugosa* と連關を保つものではないかと思はれる。従つて *rugosa* を *gebleri* の亞種として取扱ふか又は *gebleri* を *rugosa* の亞種と見做すかが妥當ではないかと考へるのである。併しこれは更に一層詳しく南鮮地方を調査する必要があるから後日の研究にまつことにする。

擧筆するに當り、本文御校閲の勞を執られた江崎悌三教授、標本を寄贈して頂いた大森平生、谷口和義兩氏に對し深甚の謝意を表する。

### 各部斑紋の變異一覽表

A-group (l. s. 斑紋の大なるもの)

標本番號	産地	s. a. m. 條	s. l. m. 條	胸部下面黒紋			腹部下面中央紋	
				前胸	中胸	後胸	大小	分離状態
8	中	有	無	大	中	大	小	分離す
10	"	"	有(中)	小	小	小	中	"
14	"	無	無	"	中	大	小	"
29	"	"	有(小)	"	小	中	大	"
42	"	"	無	"	"	大	小	"
50	"	"	"	"	無	小	大	"
53	北	有	"	中	中	大	小	"
54	"	"	"	大	大	"	"	"
55	"	"	有(小)	中	中	"	"	"
56	"	"	有(中)	"	"	"	中	"
57	"	"	有(小)	"	小	"	"	"
58	"	"	有(中)	大	大	"	小	"
59	"	"	有(小)	中	小	"	中	"

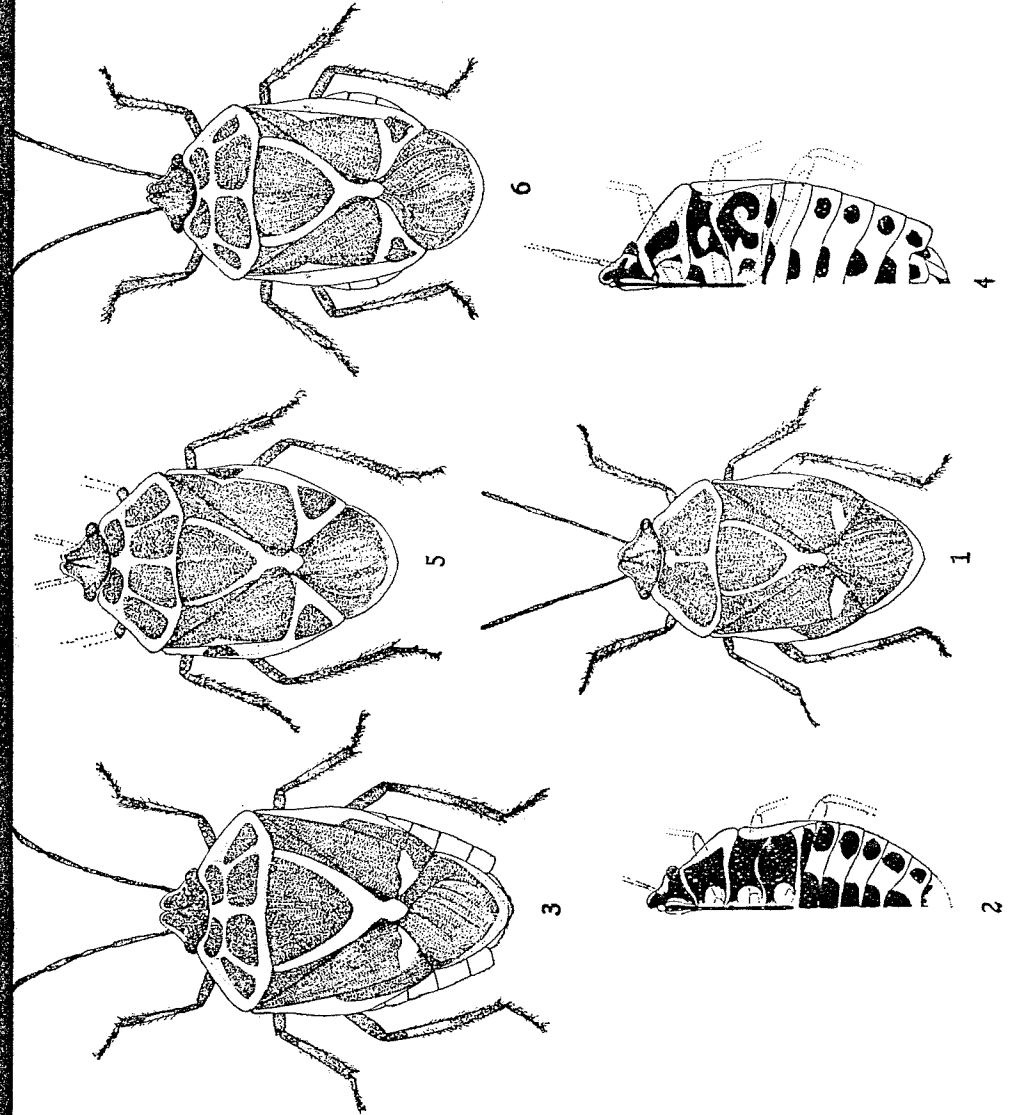
60	〃	〃	有	大	大	〃	小	〃
61	〃	〃	有(中)	中	〃	〃	〃	〃
62	〃	〃	有(小)	小	小	〃	〃	〃

B-group (l.s. 斑紋の小なるもの)

標本番號	産地	s. a. m. 條	s. l. m. 條	胸部下面黒紋			腹部下面中央紋	
				前胸	中胸	後胸	大小	離合状態
2	中	無	無	小	小	中	大	分離す
12	〃	有	〃	中	〃	小	小	〃
13	〃	〃	〃	無	無	中	大	〃
15	〃	無	〃	〃	〃	小	中	〃
16	〃	〃	〃	小	小	〃	大	〃
17	〃	〃	〃	中	〃	〃	小	〃
19	〃	〃	〃	無	無	無	中	〃
34	〃	〃	〃	〃	〃	〃	大	〃
37	南	有	〃	小	小	中	中	〃
38	中	〃	〃	〃	無	小	〃	〃
39	〃	無	〃	無	〃	〃	大	〃
41	〃	〃	〃	小	小	〃	〃	〃
44	〃	〃	〃	〃	〃	〃	中	〃
45	〃	〃	〃	無	無	無	大	〃
46	〃	有	有(小)	小	小	小	中	〃
48	〃	無	無	無	無	〃	大	〃
52	北	有	〃	小	小	〃	〃	〃

C-group (l.s. 斑紋を缺くもの)

標本番號	産地	s. a. m. 條	s. l. m. 條	胸部下面黒紋			腹部下面中央紋	
				前胸	中胸	後胸	大小	離合状態
1	中	無	無	小	小	中	大	結合す
3	〃	〃	〃	無	無	無	〃	分離す
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	中	〃



朝鮮産ナガメ屬 (異翅亞目)



5	"	"	"	"	"	小	"	"
6	"	"	"	"	"	無	大	"
7	"	有	有(中)	"	"	小	"	"
9	"	無	無	"	"	無	"	"
11	"	"	"	"	"	"	中	"
18	"	"	"	"	"	"	大	"
20	"	"	"	"	"	"	"	結合す
21	"	"	"	"	"	"	中	分離す
22	"	"	"	"	小	中	大	"
23	"	"	"	"	無	無	中	"
24	"	"	"	"	"	小	"	"
25	"	"	"	"	"	"	大	"
26	"	"	"	"	"	"	中	"
27	"	有(小)	"	"	"	無	大	"
28	"	無	"	"	"	中	"	"
30	"	"	"	"	"	小	"	"
31	"	"	"	"	"	"	中	"
32	"	有(小)	"	"	"	"	大	結合す
33	"	無	"	"	"	無	"	"
35	"	有(小)	"	小	小	中	"	分離す
36	"	無	"	無	無	"	中	"
40	"	"	"	"	"	小	小	"
43	"	"	"	"	"	"	"	"
47	"	"	"	小	小	中	大	結合す
49	"	"	"	"	"	"	"	分離す
51	"	有	有(小)	"	中	大	小	"

## 第 3 圖 版 説 明

- Fig. 1 *Eurydema rugosa* Motschulsky ナガメ  
 Fig. 2 Ventral view of *E. rugosa* 同上腹面圖  
 Fig. 3 *E. gebleri* Kolenti テウセンナガメ  
 Fig. 4 Ventral view of *E. gebleri* 同上腹面圖  
 Fig. 5 *E. pulchra* (Westwood) ヒメナガメ  
 Fig. 6 *E. dominulus* Scopoli カラフトナガメ

(昭和 15 年 2 月 4 日記)